

小松島市立学校再編実施計画

～ 未来を担う人を育てる教育のために ～

2022年(令和4年)2月

小 松 島 市

小松島市教育委員会

内 容

はじめに	1
1.本計画策定までの経緯	1
2.小松島市における小学校の課題	1
3.本計画のねらい	2
第1章 「未来を担う人を育てる教育」の実現に向けて	3
1.「未来を担う人を育てる教育」のための望ましい学校規模	3
(1) 学校規模の確保	3
①児童数の推移	3
②学校規模の現状	4
(2) 基本的な考え方	4
第2章 学校再編でめざす教育	5
1.義務教育9年間を見通した教育	5
(1) 新たな時代を生きる力の育成	5
①小中連携の充実	5
②教科担任制の充実	5
③豊かな社会性の育成	5
④教職員体制の確立	6
(2) 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進	6
①個々を大切にされた教育	6
②個性を伸ばす教育	6
2.地域や実態に即した教育環境	6
(1) 教育環境の向上	6
①安心・安全な学校	6
②教育効果を高める環境	7
③地域との連携	7
④子どもの居場所づくり	7
第3章 学校再編の方向性等について	8
1.今後の方向性等	8
(1) 計画期間	8
(2) 学校の組み合わせ・位置等	8
(3) 学校数	9
(4) 再編後(2033年度(令和15年度))の校区イメージ	10
(5) まとめ	10
2.想定スケジュール等	11
(1) 基本的な考え方	11
(2) 学校再編に係る施設整備	12
①施設整備の概要	12
②校舎建設(改修等)のスケジュール(第1期)	12
③校舎建設(改修等)の概算事業費(試算)	12

3.再編校の位置に関する検討内容	13
(1) 通学に関する諸条件	13
①交通の利便性	13
②通学支援対象者数	13
(2) 学校敷地面積	15
(3) 検討結果	15
4.教育活動等の詳細検討組織	15
第4章 留意事項等	17
1.通学の安全確保	17
(1) 基本的な考え方	17
(2) 通学支援の方法	17
(3) 通学環境の整備	17
①関係機関との連携・体制強化	17
②具体的な取組	17
2.計画期間中の情報発信及び周知	18
3.まちづくり推進をめざした市関係部局との連携	18
4.児童・保護者等への配慮	18
(1) 児童への配慮	18
(2) 保護者への配慮	18
(3) 校舎建設期間中の配慮	19
(4) 放課後の児童への配慮	19
5.防災拠点としての役割	19
6.市の上位・関連計画との整合性	19
第5章 学校施設の利活用	20
1.既存施設の状況	20
2.基本的な考え方	20
3.活用方法について	20
4.防災施設としての活用	21
資料編	22
1.市の人口推移シミュレーション	22
2.将来の学校規模シミュレーション	23
3.通学支援シミュレーション	25
4.本計画策定までの経緯	29

はじめに

1.本計画策定までの経緯

全国的な少子化が進む中で、小松島市教育委員会では、2010年度（平成22年度）に「小松島市学校再編計画策定委員会」を設置し、2012年度（平成24年度）には「小松島市学校再編計画」を取りまとめました。中学校の再編に関しては、この再編計画により、2016年（平成28年）4月の小松島南中学校の開校をもって小松島中学校と小松島南中学校の2校体制となったことで、再編が完了しています。

しかし、少子化に歯止めがかからない状況の中で、策定委員会の想定を上回るスピードで児童数が減少していることや、学校施設（校舎等）の老朽化問題など、本市を取り巻く状況は学校再編計画策定時から大きく変化しました。小学校の再編に関しては、このような状況を踏まえ、改めて将来を見通した学校規模・適正配置の具体的ビジョンとして2018年度（平成30年度）に「小松島市立学校再編基本計画」（以下「基本計画」という。）を取りまとめました。

2019年度（令和元年度）には、これまでの取組から次の段階へ進めるべく、再編する学校名や再編目標年度など、基本計画に基づき学校再編内容を具体化した「小松島市立学校再編実施計画」（以下「実施計画」という。）（案）を策定しました。しかし、実施計画（案）に対する市民からの疑問や市議会からは「市民の理解度は十分とは言えず、市長の説明責任が果たせていない。市長と教育委員会は、市民に対してより理解を求め、合意形成を図るべきである」という意見書が提出されたことを受け、その年度の成案化は見送ることといたしました。

2020年度（令和2年度）は、市民により一層理解が得られるよう説明を行うため、教育委員会と市長部局との連携を強化し、市内各所で意見聴取会や有識者会議を共同で開催するとともに、両組織間で何度も協議を重ねてまいりました。その過程においては、学校再編に関する諸課題を解消する方策を協議した一方で、実施計画（案）が実現可能となるよう修正する必要があるとの意見もあったことから、同案自体を見直すことにいたしました。

以上の経緯を経て、これまでに多くの皆様からいただいた意見を参考にしながら、このたび、小松島の実情に応じた教育効果が得られるよう、改めて本計画を策定することといたしました。

2.小松島市における小学校の課題

小松島市では、全国学力学習状況調査の結果から、小・中学校とも、「相互間における問題解決力が不足」「根気強さの欠如」「新たなものへの適応力の不足」といった課題があります。児童数の減少につれて学級の人数も少なくなっており、体育や音楽など、ある程度の人数を必要とする学習に

制約が生じたり、多様な学習形態がとれなくなったりしています。また、現在、複数の学年で1学級を編成した複式学級で学習をしている学校もあります。複式学級にともなう学級数減少により、教員の数も減っている状況です。

課題解決や現状改善を図るためには、小さなグループから大きなグループまで、場面に応じて適切な規模の集団を組み、多様な教育活動を展開すること、多くの友達や教師とともに学び、生活する中で、豊かな社会性や多様な価値を育てることが重要であると考えます。

学校施設の老朽化も進んでいます。学校施設は、子どもたちの学習や生活の場であり、また災害時においては避難場所となることから、充実した教育活動を存分に展開できる機能性ととともに、安全・安心な施設環境の確保が必要となっています。

3.本計画のねらい

2020年度(令和2年度)から、小学校で実施の新しい学習指導要領でも示されているように、自ら課題を見つけ未知の状況にも対応し、未来の創り手となるような「生きる力」を子どもたちに培っていくことがこれからの学校教育に求められています。教育委員会では、義務教育の9年間を通し、小学校間、小・中学校間での連携を強化することはもとより、学校で学んだことを自分の人生や社会で生かし、生涯にわたり学び続けることができる子どもを育ていけるような、質の高い学びを提供したいと考えています。

このような認識のもと、本計画では、小松島市教育大綱(第2期)の学校教育に係る基本目標「未来を担う人を育てる教育」を柱に、新たな時代を生きる子どもたちに「生きる力」を育む教育環境の整備を進めるため、長期的な視点で計画的な学校再編を行うこととして取りまとめました。

今後は、小・中学校の教職員が一体となって義務教育9年間の学びを意識した学習指導や生徒指導、教育活動の工夫などの取組により、小・中学校間を円滑に接続し、子どもたちの発達段階に応じた指導や、特色ある教育活動などを実践できる環境づくりを進めます。

なお、学校再編にあたっては、一方の学校を存続させ、他方の学校を廃止するという考え方ではなく、新しい学校を開設するという考え方とします。学校再編を新しい小松島市の教育をつくるチャンスと捉え、「夢のある教育」となるよう取り組んでまいります。

また、将来の予測を含めて不確定要素の多い今日のような社会情勢では、今後の見直しの可能性があり得ることも考慮し、計画期間内に見直し時期を設けています。

第1章 「未来を担う人を育てる教育」の実現に向けて

1. 「未来を担う人を育てる教育」のための望ましい学校規模

(1) 学校規模の確保

① 児童数の推移

小松島市の人口は1985年度(昭和60年度)をピークに減少し、それとともに小学校に通う児童数も減少しています。今後も減少が続き、2045年度(令和27年度)は2021年度(令和3年度)の児童数の約半数にまで減少する見込みです。

児童数の減少に伴い、各小学校の小規模化も進み、「1学年1学級」の規模を確保できず、複式学級編成がある学校が増える見込みです。

将来の学校規模シミュレーション

		2021	2024	2027	2030	2033	2036	2039	2042	2045
		R3	R6	R9	R12	R15	R18	R21	R24	R27
小松島中学校区	小松島小	111人 6学級	101人 6学級	89人 6学級	81人 6学級	74人 6学級	68人 6学級	63人 6学級	58人 6学級	52人 6学級
	南小松島小	414人 14学級	378人 12学級	332人 12学級	304人 12学級	277人 12学級	255人 12学級	235人 12学級	215人 9学級	196人 6学級
	北小松島小	120人 6学級	110人 6学級	96人 6学級	88人 6学級	80人 6学級	74人 6学級	68人 6学級	62人 6学級	57人 6学級
	千代小	95人 6学級	87人 6学級	76人 6学級	70人 6学級	64人 6学級	59人 6学級	54人 6学級	49人 6学級	45人 4学級
	児安小	125人 6学級	114人 6学級	100人 6学級	92人 6学級	84人 6学級	77人 6学級	71人 6学級	65人 6学級	59人 6学級
	芝田小	76人 6学級	69人 6学級	61人 6学級	56人 6学級	51人 6学級	47人 4学級	43人 4学級	39人 4学級	36人 4学級
	立江小	81人 6学級	74人 6学級	65人 6学級	59人 6学級	54人 6学級	50人 6学級	46人 4学級	42人 4学級	38人 4学級
小松島南中学校区	櫛淵小	33人 4学級	30人 4学級	26人 3学級	24人 3学級	22人 3学級	20人 3学級	19人 3学級	17人 3学級	16人 3学級
	坂野小	78人 6学級	71人 6学級	63人 6学級	57人 6学級	52人 6学級	48人 4学級	44人 4学級	41人 4学級	37人 4学級
	和田島小	163人 6学級	149人 6学級	131人 6学級	120人 6学級	109人 6学級	101人 6学級	92人 6学級	85人 6学級	77人 6学級
	新開小	177人 8学級	162人 6学級	142人 6学級	130人 6学級	119人 6学級	109人 6学級	100人 6学級	92人 6学級	84人 6学級
市全体児童数		1,473人	1,345人	1,181人	1,081人	986人	908人	835人	765人	697人

※ 資料編(資料2)「将来の学校規模シミュレーション」から各小学校児童数を抜粋し、その合計値を市全体児童数としています。

※ 複式学級とは、他の学年の児童と合わせて16人まで(1年生を含むときは8人)のときは、これをもって1学級を編成される学級です。上記表においては、複式学級編成であることをオレンジ色で着色してお示ししています。

また、1学級あたりの児童数が10人になると全体で60人の学校規模になりますが、児童数の減少具合や特別支援学級の編成等の状況によっては、複式学級になる可能性があることから、学校規模が60人未満の場合も黄色で着色しています。

②学校規模の現状

学校規模は、学校教育法施行規則において「小学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情があるときは、この限りでない」と規定されています。

本市では、児童数の減少に伴い、国が定める標準学級規模を下回る、12学級未満の小規模校が増加しています。2021年度（令和3年度）は11校中10校が小規模校であり、このうち1校は複数の学年で1学級を編成する複式学級編成になっています。

小学校

令和3年度 児童数

令和 3 年 5 月 1 日 現在

学年	小松島		南小松島		北小松島		千代		児安		芝田		立江		櫛淵		坂野		和田島		新開		合計	
	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数
1	1	17	2	61	1	21	1	9	1	13	1	13	1	14	0.5	1	1	10	1	23	2	37	12.5	219
2	1	15	2	62	1	18	1	13	1	22	1	9	1	11	0.5	7	1	12	1	29	2	34	12.5	232
3	1	21	2	71	1	17	1	12	1	20	1	13	1	18	0.5	6	1	12	1	22	1	23	11.5	235
4	1	20	2	66	1	20	1	20	1	20	1	12	1	10	0.5	3	1	12	1	25	1	26	11.5	234
5	1	19	3	82	1	20	1	18	1	26	1	13	1	14	1	8	1	17	1	31	1	29	13	277
6	1	19	3	72	1	24	1	23	1	24	1	16	1	14	1	8	1	15	1	33	1	28	13	276
合計	6	111	14	414	6	120	6	95	6	125	6	76	6	81	4	33	6	78	6	163	8	177	74	1473

※ 教育委員会資料

(2) 基本的な考え方

学校教育は一定規模以上の集団で行うことを基本として、様々な人間関係を通じて、児童が互いに切磋琢磨し、社会性や協調性を培っていくことが最も望ましいとの考えのもと、学校再編を進めていきます。

学校再編により、市の北部と南部において一定程度の学校規模を確保でき、将来にわたり維持していく仕組みをつくります。適度な学校規模を確保することで、クラス替えや新たな人間関係の構築のほか、集団活動、行事等における教育効果の高まりや活性化などが期待できます。

ただし、学校規模を確保するために児童に過度な負担が生じる再編は避けることとし、その場合は、学校間連携により多様な集団との関わりを確保してまいります。

第2章 学校再編でめざす教育

1. 義務教育9年間を見通した教育

(1) 新たな時代を生きる力の育成

① 小中連携の充実

これからの学校教育は、人やものの交流や関わりを深め、社会の変化に対応しながら新しい時代を生きる力を育成することが重要です。学校再編で学校数が減少することにより、教育理念の共有化が図りやすくなり、子どもたちの発達段階に応じた、9年間を見通した教育を計画的・系統的に行っていくことで、学校間の連携をさらに充実させ、小中一貫教育をめざします。



② 教科担任制の充実

小学校5・6年生への教科担任制の積極的な導入により、教科の専門性を生かしたきめ細やかな指導を行い、学力の定着と向上を図ります。また、外国語については、学校数の減少により、ALT(外国語指導助手)の配置がしやすくなることで、チーム・ティーチングをさらに充実させていきます。

③ 豊かな社会性の育成

同年代の集団で生活することにより、社会生活上のルールを習得するとともに、基本的な倫理観や道徳観を養っていきます。学校生活をともに過ごす人が多くなることにより、多様な人に接する機会が増えます。多くの人と様々な活動を行うことで、望ましい人間関係の構築や豊かな社会性の育成のさらなる充実を図ります。

④教職員体制の確立

学校再編により、学校数が少なくなることで、学校間の情報共有がしやすくなります。

全ての教職員が、児童生徒の実態、教育課程等について共通理解ができ、教材や教具の共有、学年・教科における授業研究や授業改善、生徒指導等、組織的に教育にあたることができるようになり、全ての教職員で子どもの9年間の成長を支える体制づくりをめざします。

教職員の資質・能力を向上させ、質の高い教育の推進をめざします。

(2) 一人一人の可能性を伸ばす教育の推進

①個々を大切にした教育

誰もが同じ場でともに学び、ともに育つインクルーシブ教育の充実を図ります。

支援が必要な子どもたちの個別の教育的ニーズを共有しながら、多くの教師が関わることで、最適な学習内容や指導方法を工夫していくことができるようになります。

学校規模が大きくなることで、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関への相談体制の充実を図りやすくなります。

②個性を伸ばす教育

現在よりも大きな学級集団となることにより、個別学習・ペア学習・グループ学習等の様々な学習形態を効果的に授業に取り入れることができ、子どもの興味・関心や学習進度に応じた活動を充実させていきます。子どもたちが教え合い学び合う協働的な学習を進めることで、主体的・対話的で深い学びの実現をめざします。

再編後の施設整備では、デジタル機器を活用した学習やICT環境を充実させ、個人の習熟度に応じた支援を行っていきます。

集団で行う体験学習や発表会を通じて、自他のよさを認める機会を充実させることで、自己有用感、自己肯定感の向上を図ります。

2.地域や実態に即した教育環境

(1) 教育環境の向上

①安心・安全な学校

子どもたちが、安心・安全に学校生活を送ることができるよう、地震・津波・大雨・土砂災害等の防災に配慮した校舎建築をめざします。また、日照・採光・換気などを考慮した快適な空間、清潔で明るく使いやすいトイレ等、子どもが心地よく過ごすことのできる環境づくりをめざします。

②教育効果を高める環境

多様な学習形態に対応できる広さのある教室、教科横断的に活動しやすく機能的な特別教室、いつでも学びたいときにデジタル教材や機器を使うことのできる場所等、今後の教育内容に十分対応できる環境をめざします。

③地域との連携

再編した地域の融合を図るために、コミュニティ・スクール(学校運営協議会)を通じて、地域の方々に学校運営に参画していただき、協力・連携しながら、よりよい学校づくりをめざします。また、地域学校協働活動を活用して、小松島市の豊かな歴史・文化・芸術などの地域資源を生かし、「小松島らしさ」に触れる教育や体験活動などの充実を図り、郷土について学ぶ場を確保していきます。

④子どもの居場所づくり

学校・保護者・地域が協力・連携して、子どもが安心・安全に過ごすことのできる居場所づくりのために、放課後子ども教室や学童保育クラブ(放課後児童クラブ)を整備していきます。放課後子ども教室では、地域学校協働活動などを通じて、学習やスポーツなどの活動や地域の方々との交流を推進していきます。

第3章 学校再編の方向性等について

1. 今後の方向性等

(1) 計画期間

今後、小松島市における11小学校の段階的な学校再編を進めます。計画期間は第1期【2022年度(令和4年度)～2033年度(令和15年度)】と第2期【2034年度(令和16年度)～2045年度(令和27年度)】のそれぞれ12年間とし、第1期の前期で小松島中学校区の再編を、後期で小松島南中学校区の再編を進めることとします。

ただし、今後、急激な児童人口の減少により複式学級が常態化している小学校については、計画期間よりも先に近隣小学校に統合する場合があります。

なお、今後の都市計画の方向性や人口推移など予測困難な要素のほかに、本市の財政状況も考慮する必要があるため、再編時期や再編方法等については、適宜見直しを行うことにしています。

学校再編の計画期間

【第1期】	前期	2022年度(令和4年度)～2027年度(令和9年度)	小松島中学校区の再編
	後期	2028年度(令和10年度)～2033年度(令和15年度)	小松島南中学校区の再編
【第2期】		2034年度(令和16年度)～2045年度(令和27年度)	2033年度(令和15年度)以降の見直し期間を経て決定する

(2) 学校の組み合わせ・位置等

11の校区から成る現在の本市の小学校区は、2つの中学校区によって北部と南部に大きく分かれています。そこで、小学校候補地の検討にあたっては、中学校区に対する小学校区の関わりが明瞭になるよう、北部と南部に分けて検討を行いました。

再編校の位置及び建設については、大規模な学校用地を新たに選定することは困難であること、また、仮に新たな学校用地を確保するとすれば、用地取得費等の多額の財政負担が伴うことや、用地取得までに相当期間を要することが予想されることから、既存校地の中で再編するのが現実的な選択であると考えました。また、通学に関する諸条件も検討したほか、敷地面積についても考慮しました。(検討内容については後述します。)

その結果、第1期における学校の組み合わせや位置等については、以下のとおりです。

小松島中学校区

(ア) 小松島小、南小松島小、千代小、芝田小の4校を1校に再編します。

(イ) 再編小学校の位置は、現在の南小松島小学校敷地と児安小学校敷地とします。

(ウ) 北小松島小は、当面存続することとし、将来的には(ア)の再編校に編入します。

小松島南中学校区

(エ) 立江小、櫛淵小、坂野小、新開小の4校を1校に再編します。

(オ) 再編小学校の位置は、現在の新開小学校敷地と和田島小学校敷地とします。

※ (ア)(エ)の再編校は今後新たな名称を検討しますが、現時点では、(ア)は「新小松島小学校(仮称)」と呼び、(エ)は「新小松島南小学校(仮称)」と呼ぶこととします。

(3) 学校数

学校数については、学校再編を段階的に進めることから、時期によって異なります。

第1期における各時期の学校数は下記のとおりです。

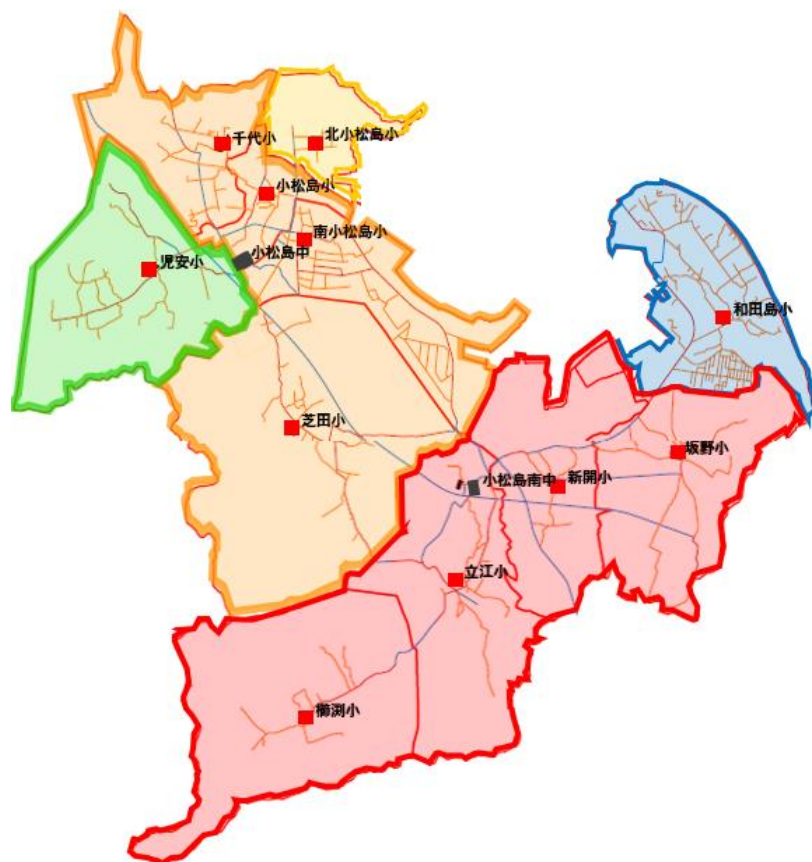
なお、第2期以降の学校数については、見直し期間を経て決定することとします。

	現 在	第 1 期				見直し期間(令和15年度～令和17年度)	第 2 期	
		前 期		後 期			未 定	
		2022年度(令和4年度)		2028年度(令和10年度)			2034年度(令和16年度)	
		2027年度(令和9年度)		2033年度(令和15年度)		2045年度(令和27年度)		
北 部	小松島小学校	新小松島小学校 (仮称)	558人 (18学級)	新小松島小学校 (仮称)	466人 (18学級)	令和15年度以降の見直し 期間を経て決定		
	南小松島小学校							
	千代小学校							
	芝田小学校							
	北小松島小学校	北小松島小学校	96人 (6学級)	北小松島小学校	80人 (6学級)			
児安小学校	児安小学校	100人 (6学級)	児安小学校	84人 (6学級)				
南 部	新開小学校	新開小学校	142人 (6学級)	新小松島南小学校 (仮称)	247人 (12学級)	令和15年度以降の見直し 期間を経て決定		
	立江小学校	立江小学校	65人 (6学級)					
	櫛淵小学校	櫛淵小学校	26人 (3学級)					
	坂野小学校	坂野小学校	63人 (6学級)					
	和田島小学校	和田島小学校	131人 (6学級)	和田島小学校	109人 (6学級)			
校数	11校	8校		5校				

(4) 再編後(2033年度(令和15年度))の校区イメージ

学校再編にあたっては、現在の校区を維持し、その校区の学校単位での再編を原則とします。ただし、通学を指定された学校よりも近距離に別の学校がある場合は、申請によりその校区の学校に通学することを認める方針ですが、再編準備を進める中でも、通学距離や道路網の新たな整備などの情勢に応じた通学環境を考慮し、見直しを検討してまいります。

また、再編により校区は広がりますが、これまでの地域と学校との関係を継続し、地域の歴史や伝統を新しい学校に継承してまいります。新しい学校名や学校行事、児童の事前交流の方法など、学校再編の準備として必要な事項について協議する組織を設置します。(15・16ページ参照)



(5) まとめ

学校再編により一定規模以上の集団で学べる環境を確保してまいります。

そこで、まずは第1期における学校再編に取り組んでまいります。その過程においては、標準規模校とともに小規模校が併存することになりますが、再編に伴う学校数の減少により、これまで以上に学校間の連携を密にすることができ、学校どうしが合同で学べる機会を充実させることで、各学校の人的・物的資源を相互に活用しながら多様な学びを保障するとともに、効果的な多人数指導と少人数指導を併せて実践することが可能になると考えています。

第2期以降については、そこに至るまでの再編の状況や児童数の推移などを見極めながら、引き続き、よりよい教育環境となるように検討を行ってまいります。

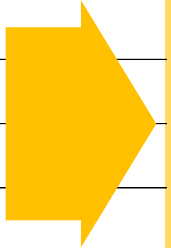
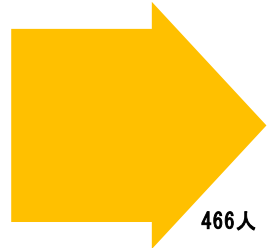
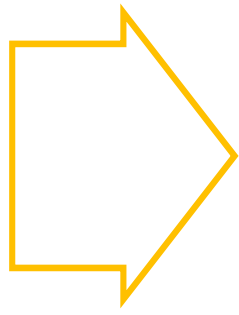
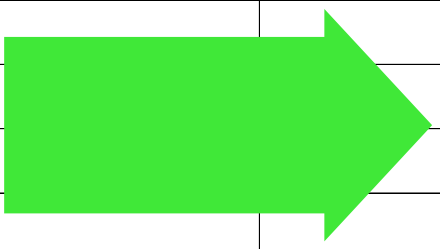
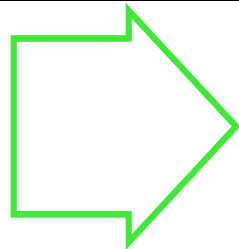
2. 想定スケジュール等

(1) 基本的な考え方

本計画の第1期(12年間)では、新小松島小学校(仮称)は2027年度(令和9年度)の開校をめざして、南小松島小学校の敷地に校舎等を、また、新小松島南小学校(仮称)は2033年度(令和15年度)の開校をめざして、新開小学校敷地に校舎等を整備します。第1期で統合しない児安小学校と和田島小学校の校舎は築年数が50年を超えているため2026年度(令和8年度)から2029年度(令和11年度)頃にかけて大規模改修を行います。北小松島小学校は校舎建築年が比較的新しい(築年数37年)ため、必要に応じて修繕を行います。

その後、計画の見直し時期を設け、第2期以降の計画において、学校再編の進捗を検証し、児童数の推移や財政事情等も踏まえながら、2035年度(令和17年度)頃を目途に、次期計画の策定に向けた見直しを進めます。

学校再編スケジュール

学校敷地		R3	第1期				第2期	
			前期		後期		未定	
			2022年度 ~ 令和4年度	2027年度 ~ 令和9年度	2028年度 ~ 令和10年度	2033年度 ~ 令和15年度	2034年度 ~ 令和16年度	2045年度 ~ 令和27年度
小松島中学校区	南小松島小学校	414人	 新小松島 (仮称) 小学校 558人	 466人	見直し期間 (令和15年度 ～ 令和17年度)		見直し期間 (令和25年度 ～ 令和27年度)	
	小松島小学校	111人						
	千代小学校	95人						
	芝田小学校	76人						
	北小松島小学校	120人						96人
	児安小学校	125人	100人	84人				
小松島南中学校区	新開小学校	177人	 新小松島南 (仮称) 小学校 247人		令和17年度 ～ 令和27年度			
	立江小学校	81人						
	瀬淵小学校	33人						
	坂野小学校	78人						
	和田島小学校	163人	109人					

(2) 学校再編に係る施設整備

①施設整備の概要

新築となる新小松島小学校(仮称)及び新小松島南小学校(仮称)の建設については、それぞれの学校再編後の児童数に見合う必要面積に㎡単価を乗じることにより事業費を算出しました。事業スケジュールについては、事業費規模による今後の財政収支への影響等にも鑑み、第1期計画期間の【前期】(2022年度(令和4年度)~2027年度(令和9年度)を想定)の期間において新小松島小学校(仮称)の建設を想定し、【後期】(2028年度(令和10年度)~2033年度(令和15年度)を想定)の期間において新小松島南小学校(仮称)の建設を想定しました。また、いずれの建設においても、設計から建設工事の事業期間を5年と想定し、事業費を試算しました。

校舎築年数が50年を超過する北部校区の児安小学校及び南部校区の和田島小学校の大規模改修については、既存校舎全体を改修する工事を想定し、新築工事との重複期間を調整しながら、2026年度(令和8年度)~2029年度(令和11年度)の間までに改修を行うことを想定しました。また、事業期間については、いずれの学校も設計から改修工事まで3年を想定しました。

校舎建設(改修等)のスケジュール及び概算事業費(試算)については以下のとおりです。

建設方法については、よりよい教育環境の早期実現を図るため、従来の方法を含めて効果的な方法を検討してまいります。

②校舎建設(改修等)のスケジュール(第1期)

学校	内容	2021年度 令和3年度	2022年度 令和4年度	2023年度 令和5年度	2024年度 令和6年度	2025年度 令和7年度	2026年度 令和8年度	2027年度 令和9年度	2028年度 令和10年度	2029年度 令和11年度	2030年度 令和12年度	2031年度 令和13年度	2032年度 令和14年度	2033年度 令和15年度
新小松島 小学校(仮称)	整備工程		基本設計	実施設計		工事		開校						
	新築		前	期	建築	外構整備								
新小松島南 小学校(仮称)	整備工程								基本設計	実施設計		工事		開校
	新築								後	期	建築	外構整備		
児安小学校 ・和田島小学校	大規模改修等						設計	工事						
								設計	工事					

③校舎建設(改修等)の概算事業費(試算)

	事業内容	実施時期	事業期間	事業費
新小松島小学校(仮称)	新築	前期	5年	24億43百万円
新小松島南小学校(仮称)	新築	後期	5年	22億21百万円
児安小学校	大規模改修等	前期又は後期	3年	8億58百万円
和田島小学校	大規模改修等	前期又は後期	3年	10億26百万円
事業費合計				65億48百万円

3.再編校の位置に関する検討内容

(1) 通学に関する諸条件

①交通の利便性

学校再編に伴い通学支援(スクールバスなど)が必要であるため、各学校敷地における「スクールバスのアクセス性」について検討しました。学校に接する道路の幅員が7.5m以上は◎、学校の接道ではないものの通学に影響を与えない場合は○、いずれも7.5m未満の場合は×として評価しました。

評価方法

視点	評価指標	評価基準
スクールバスのアクセス性	接する道路の幅員	◎：いずれか7.5m以上 ※ ○：学校の接道ではないものの、通学に影響を与えない場合 ×：いずれも7.5m未満

スクールバスでのアクセス性(評価結果)

北部校区

	名称	道路幅員(m)	評価
1	小松島小学校	東側：4.3 南側：3	×
2	南小松島小学校	西側：5.6 北側：8.5	◎
3	北小松島小学校	東側：10.4 南側：6	◎
4	千代小学校	西側：3 北側：14 ※東側は社有地	◎
5	児安小学校	南側：8	◎
6	芝田小学校	北側：6	×

南部校区

	名称	道路幅員(m)	評価	備考
7	立江小学校	西側：6.1 南側：10	◎	
8	櫛淵小学校	東側：6 南側：7.1	×	
9	坂野小学校	東側：14 南側：6	◎	
10	和田島小学校	西側：3.5 南側：5.5	×	
11	新開小学校	西側：5 北側：8(県道141号線)	○	県道141号線に停車し、そこから徒歩での通学可能

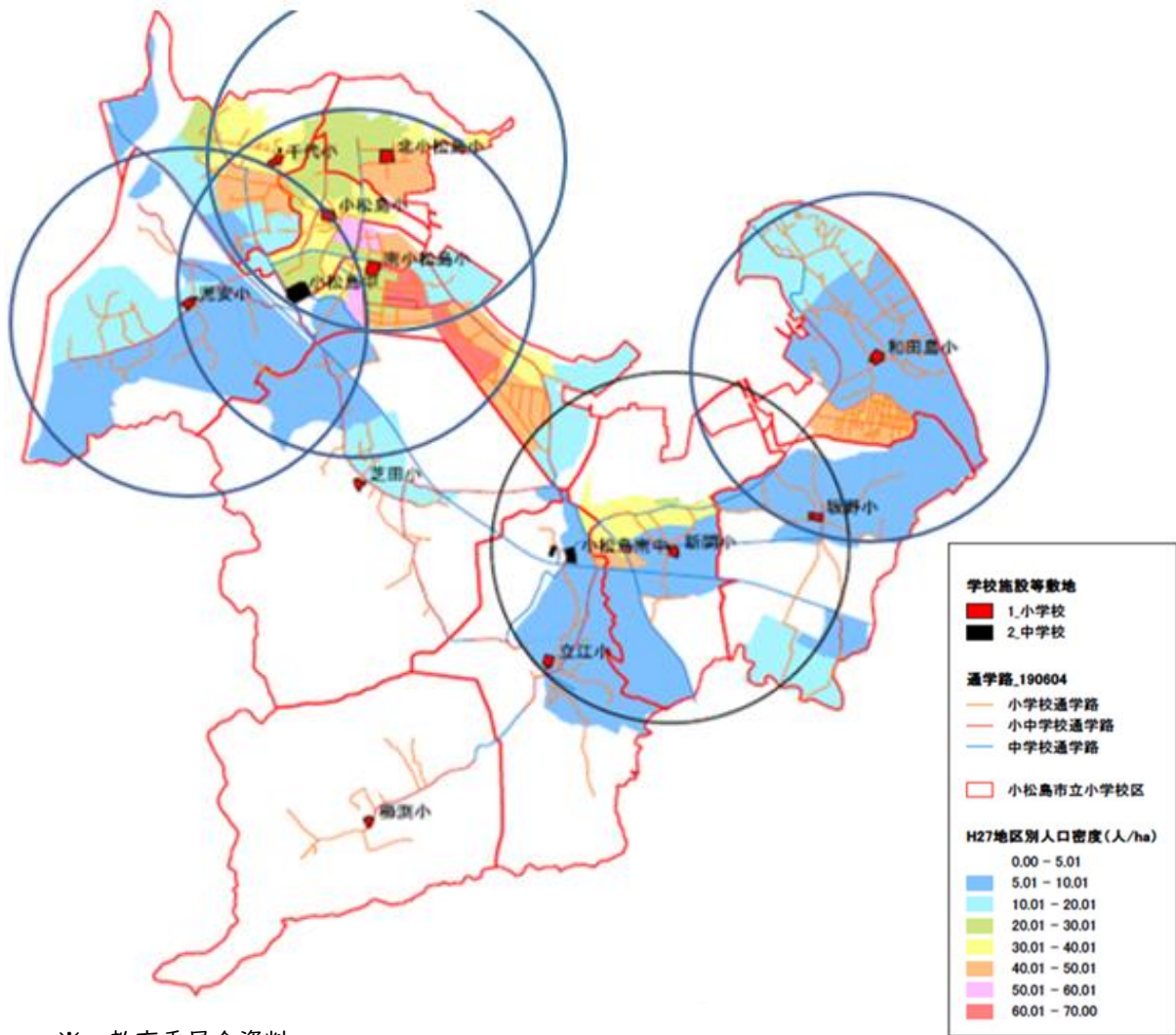
※ スクールバスが通行する道路は、車の往来が可能な2車線を前提とし、道路構造令より設計速度を30~50km/hとした場合の車線の幅員が2.75m(第3種第4級道路、平地部での交通量1日あたり500台以上1,500m未満)であるため、車道を2.75×2=5.5mとする。そして歩道を最低でも幅員1mとし、歩道(両側)幅員2mとして、道路幅員の最低限度7.5mを評価の基準とする。

②通学支援対象者数

これまでの検討に加えて、基本計画の「徒歩での通学を原則とする」という基本方針や過去の住民説明会参加者からのご意見(アンケート含む)を踏まえ、徒歩で通える児童数が多い場所(敷地)について検討を行いました。

教育委員会では、再編に伴う通学距離の延伸に対する児童の負担を軽減する措置として通学支援が必要と考えています。スクールバスがその一つの方法になると思われませんが、学校再編予定地から半径1,800m(徒歩30分圏)の円の範囲を徒歩通学圏の目安とし、その円の外側(バス通学圏)にある地区にお住まいの児童を支援対象とする想定です。

30分徒歩圏図（半径1,800mとした場合）



※ 教育委員会資料

想定される通学支援者数等				
	学 校	全児童	通学支援者	スクールバス
【北 部】 2027 年度 (令和9年度)	新小松島小学校（仮称）	558人	92人	2台
	北小松島小学校	96人	0人	0台
	児安小学校	100人	0人	0台
【南 部】 2033 年度 (令和15年度)	学 校	全児童	通学支援者	スクールバス
	新小松島南小学校（仮称）	247人	77人	2台
	和田島小学校	109人	0人	0台

上記想定を参考に、路線バスの活用等についても今後検討を行う予定

(2) 学校敷地面積

新設する2校についての運動場の基準面積(児童数に対応する国の基準値)は以下のとおりです。
なお、校舎については、高層階にするなどの建て方により、想定学級数規模の建設が可能であると判断しました。

運動場の基準面積(小学校設置基準)

新小松島小学校(仮称)

(2027年度(令和9年度) 推定児童数: 558人)

既存敷地	運動場面積
南小松島小学校	8,020 m ²
基準面積	5,580 m ²

新小松島南小学校(仮称)

(2033年度(令和15年度) 推定児童数: 247人)

既存敷地	運動場面積
新開小学校	6,143 m ²
基準面積	2,470 m ²

※ 小学校設置基準(平成14年3月29日文科科学省令第14号)

(3) 検討結果

再編校の位置については、各学校敷地における「スクールバスのアクセス性」を踏まえた上で、通学支援者数が少なくなる学校敷地の組み合わせを検討しました。結果、市の北部の新小松島小学校(仮称)と児安小学校、市の南部の新小松島南小学校(仮称)と和田島小学校の4校の位置での再編が、2033年度(令和15年度)時点の通学支援者数(想定)が最も少ないと考えました。

北小松島小学校については、比較的校舎が新しいことを踏まえ、当分の間、引き続き学校を存続しますが、将来的には、新小松島小学校(仮称)に編入することになります。ただし、編入時期については、児童数の減少や学校施設の老朽化などを加味しながら、今後、適宜検討することとします。

また、学校敷地面積についても考慮しました。新設する2校の運動場は、国の基準面積を超える広さを持ち、校舎についても、想定学級数規模の建設は可能と判断しました。

4. 教育活動等の詳細検討組織

新たな学校名や教育活動、学校の組織等の扱いなど、細部にわたって検討し決めなければならない課題が数多くあります。これらの諸課題を協議する段階から広く地域住民の意見を取り入れて進める必要があり、再編する各学校のPTAや地域住民、学校関係者等の参加のもとで、学校再編準備委員会(以下「準備委員会」という。)を設置し、その専門部会で詳細な検討を行うなど、学校再編に向けた具体的な協議を行うこととします。

学校再編準備委員会の設置（案）

（専門部会）

部会名（想定）	主な作業内容	部員
総務部会	<ul style="list-style-type: none"> ○学校の名称、校則等に関する事。 ○式典行事に関する事。 ○再編校への移転計画に関する事。等 	小・中学校教職員 P T A等関係者 地域関係者 市職員 等
教育課程等部会	<ul style="list-style-type: none"> ○教育課程等教育内容に関する事。 ○学校行事に関する事。 ○児童会、生徒会に関する事。等 	小・中学校教職員 市職員 等
通学部会	<ul style="list-style-type: none"> ○通学体制に関する事。 ○通学路に関する事。 ○通学支援に関する事。等 	小学校教職員 P T A等関係者 地域関係者 市職員 等
P T A部会	<ul style="list-style-type: none"> ○P T Aの組織運営に関する事。 	小学校教職員 P T A等関係者 市職員 等
教育事務部会	<ul style="list-style-type: none"> ○施設及び備品に関する事。 ○予算計画に関する事。等 	小学校教職員 市職員 等

第4章 留意事項等

1. 通学の安全確保

(1) 基本的な考え方

徒歩での通学を原則としますが、再編に伴い通学距離が一定以上に延伸し、通学が著しく困難となった場合や通学の安全確保に必要なが生じた場合は、公共交通機関の活用やスクールバスなどの通学手段を検討してまいります。

通学路については、「小松島市通学路安全推進プログラム」等の取組により安全対策を講じてきた経路をできるだけ活用し、小学校間を安全に接続する経路を設定します。また、児童への交通指導やスクールゾーンによる交通規制などで通学のルール化を図ります。

(2) 通学支援の方法

再編に伴って通学先の学校まで、半径1,800mを超える場合は、通学支援を実施します。原則、路線バスやJRを利用する方法としますが、バス路線等がない地域はスクールバスを運行することとします。路線バスを利用する場合は、通学支援サポーターを配置して、バスの乗降時や車内での安全確保に努めます。

今後、経路変更、ダイヤ調整、バス停の新設など、関係機関との協議を進めていきます。

また、スクールバスを運行する場合の乗降場所は旧学校の敷地等を候補として検討します。

(3) 通学環境の整備

①関係機関との連携・体制強化

通学環境の整備については、通学路全般の安全確保とともに、通学路の変更によってできる新たな危険個所を把握して、その解消を図るとともに、学校と保護者、地域、行政との連携協力体制をさらに強化していきます。

②具体的な取組

安全性を確保するため、関係機関（公安委員会など）と連携し、交通規制（スクールゾーン等の設定など）や交通安全施設の整備などにより、交通安全対策を図ります。併せて、定期的に交通安全教室を実施し、児童への交通ルールについての安全学習を実施します。

また、登下校の注意を喚起する交通指導や安全な通学路を設定するとともに、交通安全対策施設（防護柵、標識、路面標示等）を整備するなど、通学路の安全確保に努めてまいります。

通学路の浸水対策については、排水機場等のポンプ施設の適正な運転管理等により、引き続き、浸水軽減を図ります。

2.計画期間中の情報発信及び周知

今後、本計画に基づき新たな学校の設置や通学区域の変更、工事期間中の学校運営など、具体的な取組を進めていくこととしています。保護者や地域住民の方々に、今後の取組にご理解、ご協力をいただけるよう、適宜、わかりやすく情報発信を行い、広く周知に努めます。

3.まちづくり推進をめざした市関係部局との連携

「未来を担う人を育てる教育」は、学校内での教育だけでなく、例えば放課後子ども教室や学童保育クラブ(放課後児童クラブ)も含めた子どもたちの学びの場の提供や居場所づくりなど、多岐にわたるため、市の関係部局との連携が不可欠になります。

また、これまでに取り組まれてきた地域活動(公民館、自主防災組織等)については、学校再編後も引き続き活動の場を確保しつつ、市全体のまちづくりに取り組む中で、学校と関係部局が連携して進めます。

4.児童・保護者等への配慮

(1) 児童への配慮

再編による児童の不安等を軽減し、新たな学校生活に円滑に移行できるよう、学校間の事前交流等を進めます。また、再編後における教職員の継続配置や加配制度の活用など、学校の指導・運営体制を整えることで児童の負担軽減に努めます。

(2) 保護者への配慮

再編に伴う通学先の変更にあたっては、従前校の制服や持ち物を使用することを原則とし、新たな保護者負担が生じないように配慮します。また、再編に伴って通学先の変更等で通学支援(路線バス・スクールバス)が必要になる場合は、保護者負担が生じないように配慮します。

(3) 校舎建設期間中の配慮

校舎建築に関しては、児童の安全性や学習への影響等に配慮しつつ、可能な限り支障が生じないよう行います。南小松島小学校敷地内の幼稚園や学童保育クラブの施設については、新しい校舎等の配置計画を含めた基本設計を行う中で併せて検討することとし、一時的な移転が必要となる場合は、保護者や運営者等と協議の上、進めることとします。

(4) 放課後の児童への配慮

働く女性の増加などにより、ますます学童保育クラブのニーズが高まっています。学校を建設する場合は、学校敷地内に専用区画又は専用施設を整備することを原則とします。また、運営方針等については、保護者のニーズを踏まえ、各学童保育クラブを運営する運営委員会と協議を重ね、検討することとします。

5.防災拠点としての役割

新しく学校を建設する場合は、多様な方法で利用しやすいよう配慮するとともに、学校が災害時に地域の防災拠点となることを踏まえ、新設する施設の1階部分はピロティにするなどして津波対策に取り組むほか、周辺住民等の避難スペース等を設けるなど、防災拠点としての機能の充実・強化を図っていきます。

6.市の上位・関連計画との整合性

本計画を着実に進め、その充実を図るため、本計画策定後も「未来を担う人を育てる教育」を包含するまちづくりの上位計画との関連性を図り、関係部局と連携しながら、具体的な取り組みを進めていくこととします。

なお、再編校の位置については、実施計画の上位・関連計画である下記計画との整合性を考慮しており、今後も関係部局との意思疎通を図り整合性を維持してまいります。

学校再編と諸計画との整合性

小松島市第6次総合計画	小学校再編計画の具体化について検討を行うとしている。
小松島市地域防災計画	山間部を除き大部分に津波の浸水が想定されている。
小松島市都市計画マスタープラン	JR南小松島駅周辺を「都市中心拠点」、JR阿波赤石駅周辺を「地域拠点」として捉えている。
小松島市地域公共交通網形成計画	路線バスを通学バスとして活用する手法も視野に入れている。

第5章 学校施設の利活用

1. 既存施設の状況

学校名	建築時期
小松島小学校	2000年度（平成12年度）
南小松島小学校	1966年度（昭和41年度）
北小松島小学校	1983年度（昭和58年度）
千代小学校	1968年度（昭和43年度）
児安小学校	1967年度（昭和42年度）
芝田小学校	1968年度（昭和43年度）
立江小学校	1971年度（昭和46年度）
櫛淵小学校	1982年度（昭和57年度）
坂野小学校	1980年度（昭和55年度）
和田島小学校	1966年度（昭和41年度）
新開小学校	1970年度（昭和45年度）

※ 各学校内の最も古い校舎の建築時期を示しています。

2. 基本的な考え方

可能な限り既存校舎を活用し、必要に応じて整備を検討します。使用しなくなる校舎や校地は、全市的な視点での有効活用などを検討します。検討にあたっては、学校再編準備委員会の専門部会とは別に、まちづくりの観点から庁内に検討組織を設置し、利活用についての調査・研究を行うとともに、地域住民と連携・協力して進めていきます。

上記取組を経ても施設の効果的な利用方法がない場合は、施設の解体と土地の利用又は売却を検討します。なお、上記検討においては、財源にも留意しながら行うこととします。

3. 活用方法について

現時点で考えられる活用方法としては、避難施設、認定こども園、公民館、コミュニティ施設、福祉サービス施設、スポーツ施設、イベント開催場所、公園のほか、企業誘致といった方法により学校再編

後も地域の活性化を図る方法が考えられます。南海トラフ地震の発生が予想される現況下では、地震災害後の仮設住宅の建設場所等としての活用も念頭に置く必要があります。

このように考えられる活用方法は様々ですが、その方法に限らず、いかなる方法が地域にとって望ましいかは、「まちづくり協議会」を立ち上げ、地域の既存団体等とともに検討してまいります。

具体的な活用方法としては、比較的新しい学校施設は積極的な活用を図ってまいります。市内小学校の中で最も施設が新しい小松島小学校には、南小松島幼稚園を移転し認定こども園化をめざすとともに、併せて中央会館の機能移転を進めます。施設が比較的新しい櫛淵小学校と坂野小学校についても積極的な活用方法を検討していくほか、施設が古い千代小学校や芝田小学校、立江小学校については、現時点では学校再編後の活用方法についての見通しはありませんが、活用方法を地域とともに模索してまいります。

4.防災施設としての活用

学校施設は、災害時には地域の方の避難施設としての役割を担っています。旧小学校の体育館については、当面存続するため、避難所として利用することができます。校舎については、利活用の見込みがなく除却するまでの間は、屋上を津波避難場所として利用することとします。

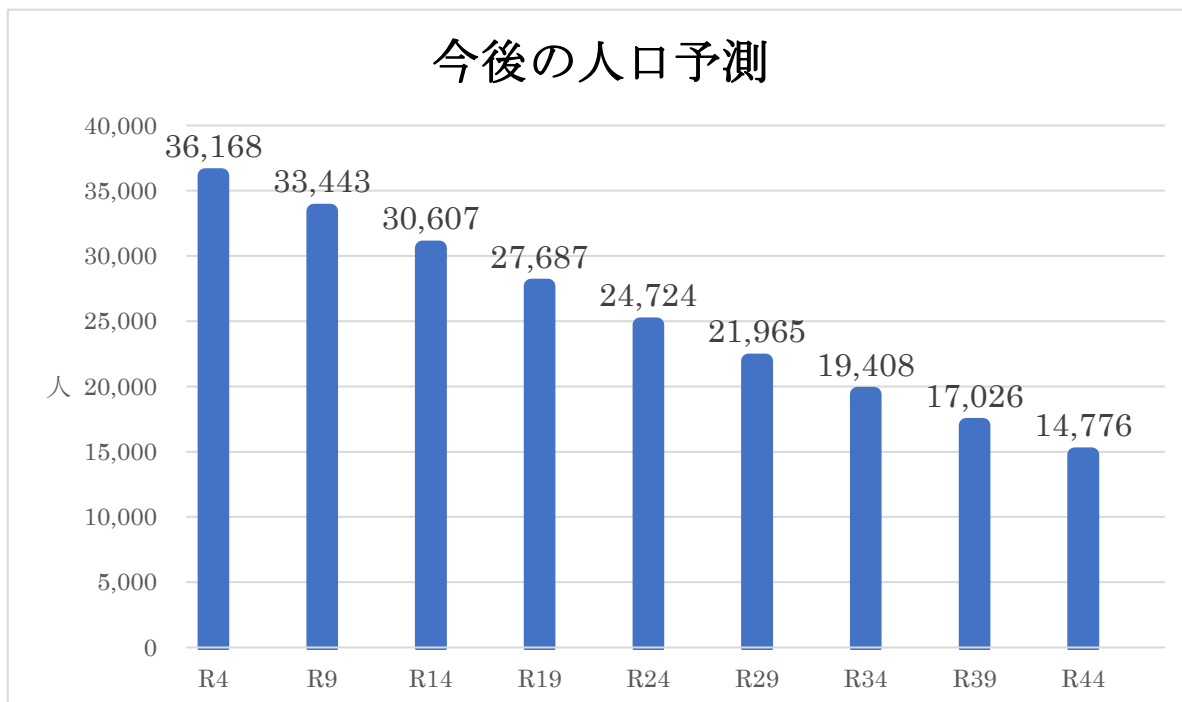
資料編

1.市の人口推移シミュレーション

資料 1

市の人口推移シミュレーション

(市全体)



出典等:小松島市の「人口シミュレーション(現行推移モデル)」をもとに教育委員会で作成

2.将来の学校規模シミュレーション

資料2

将来の学校規模シミュレーション

児童数については、小松島市住民基本台帳の人口データ(2012年(平成24年)9月30日現在と2017年(平成29年)9月30日現在の男女5歳刻みの人口)を使用し、2022年(令和4年)以降に市内の小学校に通う児童数を算出。その結果に2021年(令和3年)5月1日時点の各校の児童数の割合を乗ずることで、各学校の児童数のシミュレーションを行っています。

小学校 令和6年度 児童数

2024年度

学年	小松島		南小松島		北小松島		千代		児安		芝田		立江		櫛淵		坂野		和田島		新開		合計	
	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数		
1	1	15	2	57	1	17	1	13	1	17	1	10	1	11	1.0	5	1	11	1	22	1	24	120	203
2	1	15	2	57	1	17	1	13	1	17	1	10	1	11	1.0	5	1	11	1	22	1	24	120	203
3	1	15	2	57	1	17	1	13	1	17	1	10	1	11	0.5	5	1	11	1	22	1	24	115	203
4	1	19	2	69	1	20	1	16	1	21	1	13	1	14	0.5	6	1	13	1	27	1	30	115	246
5	1	19	2	69	1	20	1	16	1	21	1	13	1	14	0.5	6	1	13	1	27	1	30	115	246
6	1	19	2	69	1	20	1	16	1	21	1	13	1	14	0.5	6	1	13	1	27	1	30	115	246
合計	6	101	12	378	6	110	6	87	6	114	6	69	6	74	4.0	30	6	71	6	149	6	162	100	1346

小学校 令和9年度 児童数

2027年度

学年	小松島		南小松島		北小松島		千代		児安		芝田		立江		櫛淵		坂野		和田島		新開		合計	
	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数		
1	1	14	2	52	1	15	1	12	1	16	1	9	1	10	0.5	4	1	10	1	20	1	22	115	184
2	1	14	2	52	1	15	1	12	1	16	1	9	1	10	0.5	4	1	10	1	20	1	22	115	184
3	1	14	2	52	1	15	1	12	1	16	1	9	1	10	0.5	4	1	10	1	20	1	22	115	184
4	1	16	2	59	1	17	1	14	1	18	1	11	1	12	0.5	5	1	11	1	23	1	25	115	210
5	1	16	2	59	1	17	1	14	1	18	1	11	1	12	0.5	5	1	11	1	23	1	25	115	210
6	1	16	2	59	1	17	1	14	1	18	1	11	1	12	0.5	5	1	11	1	23	1	25	115	210
合計	6	89	12	332	6	96	6	76	6	100	6	61	6	65	3.0	26	6	63	6	131	6	142	68.0	1181

小学校 令和12年度 児童数

2030年

学年	小松島		南小松島		北小松島		千代		児安		芝田		立江		櫛淵		坂野		和田島		新開		合計	
	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数		
1	1	13	2	47	1	14	1	11	1	14	1	9	1	9	0.5	4	1	9	1	19	1	20	115	169
2	1	13	2	47	1	14	1	11	1	14	1	9	1	9	0.5	4	1	9	1	19	1	20	115	169
3	1	13	2	47	1	14	1	11	1	14	1	9	1	9	0.5	4	1	9	1	19	1	20	115	169
4	1	14	2	54	1	16	1	12	1	16	1	10	1	11	0.5	4	1	10	1	21	1	23	115	191
5	1	14	2	54	1	16	1	12	1	16	1	10	1	11	0.5	4	1	10	1	21	1	23	115	191
6	1	14	2	54	1	16	1	12	1	16	1	10	1	11	0.5	4	1	10	1	21	1	23	115	191
合計	6	81	12	304	6	88	6	70	6	92	6	56	6	59	3.0	24	6	57	6	120	6	130	68.0	1080

小学校 令和15年度 児童数

2033年度

学年	小松島		南小松島		北小松島		千代		児安		芝田		立江		櫛淵		坂野		和田島		新開		合計		
	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級
1	1	12	2	44	1	13	1	10	1	13	1	8	1	9	0.5	3	1	8	1	17	1	19	11.5	155	
2	1	12	2	44	1	13	1	10	1	13	1	8	1	9	0.5	3	1	8	1	17	1	19	11.5	155	
3	1	12	2	44	1	13	1	10	1	13	1	8	1	9	0.5	3	1	8	1	17	1	19	11.5	155	
4	1	13	2	49	1	14	1	11	1	15	1	9	1	10	0.5	4	1	9	1	19	1	21	11.5	174	
5	1	13	2	49	1	14	1	11	1	15	1	9	1	10	0.5	4	1	9	1	19	1	21	11.5	174	
6	1	13	2	49	1	14	1	11	1	15	1	9	1	10	0.5	4	1	9	1	19	1	21	11.5	174	
合計	6	74	12	277	6	80	6	64	6	84	6	51	6	54	3.0	22	6	52	6	109	6	119	69.0	987	

小学校 令和18年度 児童数

2036年

学年	小松島		南小松島		北小松島		千代		児安		芝田		立江		櫛淵		坂野		和田島		新開		合計		
	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級
1	1	11	2	40	1	12	1	9	1	12	1.0	7	1	8	0.5	3	1.0	8	1	16	1	17	11.5	143	
2	1	11	2	40	1	12	1	9	1	12	1.0	7	1	8	0.5	3	1.0	8	1	16	1	17	11.5	143	
3	1	11	2	40	1	12	1	9	1	12	0.5	7	1	8	0.5	3	0.5	8	1	16	1	17	10.5	143	
4	1	12	2	45	1	13	1	10	1	14	0.5	8	1	9	0.5	4	0.5	8	1	18	1	19	10.5	160	
5	1	12	2	45	1	13	1	10	1	14	0.5	8	1	9	0.5	4	0.5	8	1	18	1	19	10.5	160	
6	1	12	2	45	1	13	1	10	1	14	0.5	8	1	9	0.5	4	0.5	8	1	18	1	19	10.5	160	
合計	6	68	12	255	6	74	6	59	6	77	4.0	47	6	50	3.0	20	4.0	48	6	101	6	109	69.0	909	

小学校 令和21年度 児童数

2039年

学年	小松島		南小松島		北小松島		千代		児安		芝田		立江		櫛淵		坂野		和田島		新開		合計		
	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級
1	1	10	2	37	1	11	1	8	1	11	1.0	7	1.0	7	0.5	3	1.0	7	1	15	1	16	11.5	131	
2	1	10	2	37	1	11	1	8	1	11	1.0	7	1.0	7	0.5	3	1.0	7	1	15	1	16	11.5	131	
3	1	10	2	37	1	11	1	8	1	11	0.5	7	0.5	7	0.5	3	0.5	7	1	15	1	16	10.0	131	
4	1	11	2	41	1	12	1	9	1	12	0.5	8	0.5	8	0.5	3	0.5	8	1	16	1	18	10.0	147	
5	1	11	2	41	1	12	1	9	1	12	0.5	8	0.5	8	0.5	3	0.5	8	1	16	1	18	10.0	147	
6	1	11	2	41	1	12	1	9	1	12	0.5	8	0.5	8	0.5	3	0.5	8	1	16	1	18	10.0	147	
合計	6	63	12	235	6	68	6	54	6	71	4.0	43	4.0	46	3.0	19	4.0	44	6	92	6	100	69.0	836	

小学校 令和24年度 児童数

2042年

学年	小松島		南小松島		北小松島		千代		児安		芝田		立江		櫛淵		坂野		和田島		新開		合計		
	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級
1	1	9	1	34	1	10	1	8	1	10	1.0	6	1.0	7	0.5	3	1.0	6	1	13	1	14	10.5	119	
2	1	9	1	34	1	10	1	8	1	10	1.0	6	1.0	7	0.5	3	1.0	6	1	13	1	14	10.5	119	
3	1	9	1	34	1	10	1	8	1	10	0.5	6	0.5	7	0.5	3	0.5	6	1	13	1	14	9.0	119	
4	1	10	2	38	1	11	1	9	1	12	0.5	7	0.5	7	0.5	3	0.5	7	1	15	1	16	10.0	136	
5	1	10	2	38	1	11	1	9	1	12	0.5	7	0.5	7	0.5	3	0.5	7	1	15	1	16	10.0	136	
6	1	10	2	38	1	11	1	9	1	12	0.5	7	0.5	7	0.5	3	0.5	7	1	15	1	16	10.0	136	
合計	6	58	9	215	6	62	6	49	6	65	4.0	39	4.0	42	3.0	17	4.0	41	6	85	6	92	69.0	765	

小学校 令和27年度 児童数

2045年

学年	小松島		南小松島		北小松島		千代		児安		芝田		立江		櫛淵		坂野		和田島		新開		合計		
	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級	生徒数	学級
1	1	8	1	30	1	9	1.0	7	1	9	1.0	6	1.0	6	0.5	2	1.0	6	1	12	1	13	10.5	108	
2	1	8	1	30	1	9	1.0	7	1	9	1.0	6	1.0	6	0.5	2	1.0	6	1	12	1	13	10.5	108	
3	1	8	1	30	1	9	0.5	7	1	9	0.5	6	0.5	6	0.5	2	0.5	6	1	12	1	13	8.5	108	
4	1	9	1	35	1	10	0.5	8	1	11	0.5	6	0.5	7	0.5	3	0.5	7	1	14	1	15	8.5	124	
5	1	9	1	35	1	10	0.5	8	1	11	0.5	6	0.5	7	0.5	3	0.5	7	1	14	1	15	8.5	124	
6	1	9	1	35	1	10	0.5	8	1	11	0.5	6	0.5	7	0.5	3	0.5	7	1	14	1	15	8.5	124	
合計	6	52	6	196	6	57	4.0	45	6	59	4.0	36	4.0	38	3.0	16	4.0	37	6	77	6	84	59.0	696	

※ 小数点の取扱上、合計が合わないことがあります。

3.通学支援シミュレーション

資料3

通学支援シミュレーション

※スクールバスでのアクセス性を考慮しています。

※再編により増える通学支援者の人数をカウントしています。

北部1校

パターン	再編場所	校 区	通学支援者 (人)	バス (台)
1 北部1校	南小松島小学校	小松島小・南小松島小・北小松島小 ・千代小・児安小・芝田小	176	4
2 北部1校	北小松島小学校	小松島小・南小松島小・北小松島小 ・千代小・児安小・芝田小	364	7
3 北部1校	千代小学校	小松島小・南小松島小・北小松島小 ・千代小・児安小・芝田小	382	7
4 北部1校	児安小学校	小松島小・南小松島小・北小松島小 ・千代小・児安小・芝田小	507	10

※以下、主なシミュレーション結果です。

※校区が隣接しない再編のパターンは除いています。

北部2校（複数校 + 複数校）

パターン	再編場所	校 区	通学支援者 (人)		バス (台)	
(1) 北部2校	南小松島小学校	南小松島小・児安小・芝田小	127	158	3	4
	北小松島小学校	小松島小・北小松島小・千代小	31		1	
(2) 北部2校	南小松島小学校	小松島小・南小松島小・児安小・芝田小	127	158	3	4
	北小松島小学校	北小松島小・千代小	31		1	
(3) 北部2校	南小松島小学校	南小松島小・児安小・芝田小	127	132	3	4
	千代小学校	小松島小・北小松島小・千代小	5		1	
(4) 北部2校	南小松島小学校	南小松島小・北小松島小・児安小・芝田小	133	133	3	3
	千代小学校	小松島小・千代小	0		0	
(5) 北部2校	南小松島小学校	小松島小・南小松島小・児安小・芝田小	127	132	3	4
	千代小学校	北小松島小・千代小	5		1	
(6) 北部2校	南小松島小学校	小松島小・南小松島小・北小松島小・千代小	49	102	1	2
	児安小学校	児安小・芝田小	53		1	

北部2校（単独校＋複数校）

パターン	再編場所	校 区	通学支援者 (人)		バス (台)	
① 北部2校	小松島小学校	小松島小	0	176	0	4
	南小松島小学校	南小松島小・北小松島小・千代小・児安小 ・芝田小	176		4	
② 北部2校	北小松島小学校	北小松島小	0	170	0	4
	南小松島小学校	小松島小・南小松島小・千代小・児安小 ・芝田小	170		4	
③ 北部2校	千代小学校	千代小	0	133	0	3
	南小松島小学校	小松島小・南小松島小・北小松島小・児安小 ・芝田小	133		3	
④ 北部2校	児安小学校	児安小	0	98	0	2
	南小松島小学校	小松島小・南小松島小・北小松島小・千代小 ・芝田小	98		2	
⑤ 北部2校	芝田小学校	芝田小	0	127	0	3
	南小松島小学校	小松島小・南小松島小・北小松島小・千代小 ・児安小	127		3	
⑥ 北部2校	小松島小学校	小松島小	0	364	0	7
	北小松島小学校	南小松島小・北小松島小・千代小・児安小 ・芝田小	364		7	
⑦ 北部2校	南小松島小学校	南小松島小	0	190	0	4
	北小松島小学校	小松島小・北小松島小・千代小・児安小 ・芝田小	190		4	
⑧ 北部2校	千代小学校	千代小	0	333	0	7
	北小松島小学校	小松島小・南小松島小・北小松島小・児安小 ・芝田小	333		7	
⑨ 北部2校	児安小学校	児安小	0	266	0	5
	北小松島小学校	小松島小・南小松島小・北小松島小・千代小 ・芝田小	266		5	
⑩ 北部2校	芝田小学校	芝田小	0	303	0	6
	北小松島小学校	小松島小・南小松島小・北小松島小・千代小 ・児安小	303		6	
⑪ 北部2校	小松島小学校	小松島小	0	382	0	7
	千代小学校	南小松島小・北小松島小・千代小・児安小 ・芝田小	382		7	
⑫ 北部2校	南小松島小学校	南小松島小	0	134	0	3
	千代小学校	小松島小・北小松島小・千代小・児安小 ・芝田小	134		3	
⑬ 北部2校	北小松島小学校	北小松島小	0	377	0	7
	千代小学校	小松島小・南小松島小・千代小・児安小 ・芝田小	377		7	
⑭ 北部2校	児安小学校	児安小	0	314	0	6
	千代小学校	小松島小・南小松島小・北小松島小・千代小 ・芝田小	314		6	
⑮ 北部2校	芝田小学校	芝田小	0	321	0	6
	千代小学校	小松島小・南小松島小・北小松島小・千代小 ・児安小	321		6	
⑯ 北部2校	小松島小学校	小松島小	0	474	0	9
	児安小学校	南小松島小・北小松島小・千代小・児安小 ・芝田小	474		9	
⑰ 北部2校	南小松島小学校	南小松島小	0	220	0	4
	児安小学校	小松島小・北小松島小・千代小・児安小 ・芝田小	220		4	
⑱ 北部2校	北小松島小学校	北小松島小	0	411	0	8
	児安小学校	小松島小・南小松島小・千代小・児安小 ・芝田小	411		8	
⑲ 北部2校	千代小学校	千代小	0	469	0	9
	児安小学校	小松島小・南小松島小・北小松島小・児安小 ・芝田小	469		9	
⑳ 北部2校	芝田小学校	芝田小	0	454	0	9
	児安小学校	小松島小・南小松島小・北小松島小・千代小 ・児安小	454		9	

上記シミュレーション結果のうち、最も通学支援者が少なく、バス台数も少ないのはパターン④だった。

北部2校（単独校＋複数校）

パターン	再編場所	校 区	通学支援者 (人)		バス (台)	
④ 北部2校	児安小学校	児安小	0	98	0	2
	南小松島小学校	小松島小・南小松島小・北小松島小・千代小・芝田小	98		2	

パターン④をベースに、校舎が比較的新しい小松島小学校と北小松島小学校を活用する案を検討した。

検討結果については下記のとおり。

北部3校（単独校＋単独校＋複数校）

パターン	再編場所	校 区	通学支援者 (人)		バス (台)	
ア 北部3校	児安小学校	児安小	0	92	0	2
	北小松島小学校	北小松島小	0		0	
	南小松島小学校	小松島小、南小松島小・千代小・芝田小	92		2	
イ 北部3校	児安小学校	児安小	0	98	0	2
	小松島小学校	小松島小	0		0	
	南小松島小学校	南小松島小・北小松島小・千代小・芝田小	98		2	

公共交通機関活用（例）

2027年度（令和9年度）時点

【北 部】

校 区	地域（全部又は一部）	通学支援者 (人)	方 法	年間費用 (円)
千代小	江田・中田・前原	25	路線バス	579,500
	中郷	18	JR	224,280
芝田小	田野・芝生（下学年）	21	スクールバス	10,000,000
	田野・芝生（上学年）	26	路線バス	787,800
	赤石	2	JR	28,320
計		92		11,619,900

2033度（令和15年度）時点

【南 部】

校 区	地域（全部又は一部）	通学支援者 (人)	方 法	年間費用 (円)
立江小	立江	33	スクールバス	10,000,000
櫛淵小	櫛淵	22		
坂野小	坂野、和田島、間新田	22	スクールバス	10,000,000
計		77		20,000,000

公共交通施設（バス停、駅）の分布



※ 一般的に用いられる「児童の歩行速度 60m/分」を用いて、児童の 30 分徒歩距離（道程）を 1,800m と仮定し、学校敷地から半径 1,800m の円の範囲を徒歩圏、円の外側を通学支援圏の目安としています。

出典等： 「地理院地図（標準地図）」（国土地理院）(<https://maps.gsi.go.jp/>) をもとに
 小松島市教育委員会作成

4.本計画策定までの経緯

資料 4

本計画策定までの経緯

■ これまでの主な経緯

- ・ 2010年度(平成22年度) 小松島市学校再編計画策定委員会を設置
- ・ 2012年度(平成24年度) 小松島市学校再編計画を取りまとめ
- ・ 2016年(平成28年)4月 小松島南中学校を開校
- ・ 2018年(平成30年)12月 小松島市立学校再編基本計画を取りまとめ
- ・ 2019年(令和元年)9月 小松島市立学校再編実施計画(案)を策定
- ・ 同年 10月 住民説明会
- ・ 同年 12月 アンケート調査
- ・ 2020年(令和2年)3月 市議会から意見書提出
- ・ 2020年度(令和2年度) 意見聴取会、有識者会議

■ 近時の取組等

【令和2年度】

(1) 意見聴取会

月	日	
9	30	●幼稚園教育研究協議会
10	5	●小松島市PTA連合会役員会 芝田小
	13	●小松島中学校 意見聴取会
	16	●坂野小PTA本部運営委員会役員会
	19	●市立体育館 意見聴取会
	26	●千代小PTA役員会
	27	●北小松島小PTA運営役員会
11	9	●和田島小PTA役員会
	13	●市長・教育委員会とPTA連合会との懇談会
	17	●泰地保育所
	25	●和田島小PTA役員会
12	11	●南小松島小PTA総務委員会
	12	●花しんばりこども園
	12	●かもめ保育園
	16	●小松島小学校PTA理事役員会
	22	●公民館長主事会
1	14	●新開小PTA本部役員会
	15	●児安小PTA役員会
2	15	●立江幼稚園
	16	●横須保育所
3	11	●立江小しらさぎ育成会新PTA学年部長会

(2) 有識者会議

第1回

開催日:令和3年2月18日(木)

場所:小松島市立生涯学習センター

第2回

開催日:令和3年3月4日(木)

場所:小松島市立生涯学習センター

第3回

日時:令和3年3月19日(金)

場所:小松島市立生涯学習センター

【令和3年度】

(1) 連絡調整会議

第1回 令和3年4月9日(金)
第3回 令和3年7月13日(火)

第2回 令和3年6月4日(金)
第4回 令和4年1月31日(月)

※4月～7月 個別意見交換会も随時実施

(2) 住民説明会

①住民説明会(1回目)を11小学校で実施

実施場所	実施日
新開小学校	10月4日(月)
小松島小学校	10月6日(水)
南小松島小学校	10月8日(金)
北小松島小学校	10月13日(水)
千代小学校	10月14日(木)
児安小学校	10月19日(火)
芝田小学校	10月21日(木)
櫛淵小学校	10月27日(水)
坂野小学校	10月29日(金)
立江小学校	11月4日(木)
和田島小学校	11月5日(金)

②住民説明会(2回目)を中学校区ごとに実施

実施場所	実施日
市立体育館	11月24日(水)
小松島中学校	11月26日(金)

③個別説明会

・小松島学童保育クラブ

日時:令和3年11月29日(月)

場所:小松島市立生涯学習センター

(3) 計画案の周知等

8月 市ホームページに「小松島市立学校再編実施計画(案)」を掲載
市総合案内に「小松島市立学校再編実施計画(案)」の冊子を配置

11月 広報(11・12月号)に「小松島市立学校再編実施計画(案)」の概要を掲載
市ホームページ、市公式 YouTube チャンネルで説明動画を配信
市本庁舎ロビーで説明動画を放映(12月まで)
市クロスカントリー会場に計画(案)の概要を掲示

(4) 就学前児童の保護者アンケート

市内就学前施設に通園する児童の保護者向けアンケート調査を実施 (11月10日～19日)
配布数:743世帯 回収数:486部(回収率:65.4%)

※調査結果は、市ホームページに掲載

(5) パブリックコメント

「小松島市立学校再編実施計画(案)」のパブリックコメントで意見を募集(12月6日～27日)
意見提出者:3名

※実施結果は、市ホームページに掲載